

8月6日（土）の居場人たち プロフィール集

居場人と出会おう 「人が居場所だと思う」

そんな思いから「^{いばじん}居場人」という概念が生まれました。

家族が居場人だったら、家が安心してひきこまれる居場所になるかもしれない。

地域に居場人がいたら、少し勇気を持って外に出てみようと思えるかもしれない。

生きづらさを安心して語りあえる居場人が1人でもいたら、
本当に辛くて消えたくてどうしようもない時にもうちょっと生きてみようと思えるかもしれない。
もちろんあなたも誰かの居場人かもしれません。

ここに写ってる人たちが居場人かもしれないよ～会いにきてみませんか？



伊藤 正俊（NPO法人からころセンター） プロフィール （オープニングセッション）



娘が不登校になり、苦しい思いをしている時、私も苦しい思いをしました。当てのない道をただひたすらに歩きました。

娘が卒業して自分の道を歩き出してから、私も自分の道を歩くようになっていました。このような道程が、自分の道であり、ただひたすらに歩き続ける事が、人生と思えるようになりました。

人のせいにはしない、ただひたすらに自分と向き合い、いつの間にか仲間が出来、ここまでたどり着きました。今は私を取り巻く方々や関わって見守ってくださった方々に、ひたすら感謝でしかありません。

人は一人で生きていく事は叶いません。皆さんと一緒に生きていきたいと思うこの頃です。

山本 洋見（NPO法人てくてく代表） プロフィール

（オープニングセッション）



子供が苛烈ないじめにあって不登校しているとき、相談する ところがなくて途方にくれました。どこに行っても子供さんを連れてこない
と・・・と言われ相談できなかったのです。

相談先を探しているうちに、自分が相談されるようになりました。 居場人を探していたら自分が、居場人になっていて、てくてくを立ち上げました。気力、体力を養うために土いじりが、いいのではと考えててくてくファームも始めました。

今年で12年になります。野菜がたくさんできるようになったのでスーパーへ出荷することになりました。

私が居場人にふさわしいかといえはなはだ疑問です。病気がちな母にあまり相手をしてもらえなかったので、子供らしい わがままも言えずに育ったためか、本当は誰かに頼りたいのです。

私は今でも居場人を探しています。居場人募集！

まあくん・山崎正雄（やまさきまさお） プロフィール

（トークショウ 寸劇）



医師免許をとって30数年、検査データや数字ばかりで人をみない医療は嫌だなと精神科を選んだものの、医師の本来の仕事よりいろんな人とワイワイやりながらの地域活動にはまっていったら、医者にはみえないと言われつづけ、いつのまにか「ひきこもり」の活動にも足を突っ込むようになったのが私です。

「ひきこもり」の仕事は、支援よりも、いっしょに悩んでくれる人や喜んでくれる人を見いだして、つないでいく仕事だなと思います。

医療にできること、行政にできること、専門家にできることは、みんなが安心してつながることができるためのお手伝いだと思います。

いまでも精神科医であり、いろんな役職も担っていますが、そんな肩書きは抜きにした「みんなピアでえいやんか」でいたいと思います。

下田つきゆび プロフィール

(8月6日・7日 トークショウ WRAPの部屋)

人が居場所だと思う、だから居場人。



人とそれなりに繋がれるようになってから自分が出来ないこと、分からないことがたくさん可視化されるようになった。社会と距離を置いていたことで生じた痛みみたいなもの。そんな痛みみたいなものでまた動けなくなってしまうことが怖かった。

だから、繋がりの中で自分の前に置かれたことに対して、出来るか出来ないかについては深く考えないようにして、とにかく「やる」とだけ決めてしゃにむに生きた。人前で自分を晒すことも200%の力でやってきた。それが良かったか悪かったかは正直分からない。無理やりな生き方でたくさん傷付いたり、たくさん傷付けたりもしたように思う。ただ、そんな生き方じゃないと出会えなかった縁はたくさんあったし、今まで経験してこなかったことにも出会うことが出来た。カラオケだったり、カツオの塩たたきだったり、初詣だったり、友との焚き火だったり。

みんなそれなりに経験しているであろう何気ない日常の一部を少しずつ自分の中に収め生き直してきた。

そんなこんなで必死で生きてたら全国に居場所がたくさん出来た。僕にとっての居場人。そしてフェスに繋がった。人って面白いなあと率直に思う。だから生きることに向いていないと感じながらも、繋がること、生きることを止められないのだと思う。

フェスを通じて人と人が繋がることでもっともっと面白いものが生まれるんじゃないかと今から楽しみです。

坂本 勲（高知・やいろ鳥の会 会長） プロフィール

（トークショウ）



2013年(平成25年)にやいろ鳥会二代目会長に就任。当時の会員数94家族。
現在2022年7月時点で会員数135家族。私は、多趣味な方だったが会長就任と共に自分の趣味を整理してやいろ鳥の会の運営一本に絞った。

会の運営を「子どもを元気にさせる」から「親が変わる、親が成長する」という事に据えて学習会や傾聴演習、構成的エンカウンターを導入し、人間関係の充実に心がけた。居場所や会の運営では参加する人の自主性を尊重して幅広い活動ができるように心がけた。(例:ヨガの会、居場所での写真教室、パソコン教室、日曜家族サロン、焚火の会等)一人一人が、自分の人生を楽しみ充実させる工夫をした。ひきこもりの家族であっても人生を楽しみ幸せになって良いのだと会員の皆さんに訴えている。

人間関係を大切にして、行政や他の支援機関との連携を作り上げていくことに力をいれている。2020年度から高知県の委託事業である高知ひきこもりピアポートセンターの運営に取り組んでいる。



公文 一也 プロフィール

(トークショウ マルシェの部屋)



安芸地域では、平成25年から立ち上げた自殺予防ネットワークの取組から、平成26年に、10年ひきこもりの生活困窮者をナスのハウスにつないだことから副産物的に農福連携が始まりました。

この取組は多職種・多機関の連携が要になっています。平成29年には就労支援専門部会、平成30年にはJAが加入する安芸市農福連携研究会が立ち上がり就労支援は深化し林業や水産業にも波及していきました。

農福連携とは単に農業と福祉が連携することではなく、その連携から生きづらさを抱えた方達が働くことで社会に必要とされ社会的役割を持って働き、ハウスが居場所となりました。

安芸地域では、これからも農福連携を通して地域で誰もがしあわせになる農福連携ケアシステムを構築していきます。



上田理香（りか） プロフィール

（トークショウ KHJ本部事務局）



- こんにちは。東京は、豊島区巢鴨地蔵通りにいる居場人（いばじん）の
- りかです。ピアサポフェスへようこそ。
- 私は、2013年から、KHJでピアサポ研修の企画運営事務局をやってきました。
- 20代、断続的に母と子でひきこもっていたとき、社会に出てからもなかなか居場所を見つけられなかったとき、このまま自分はひとりで生きていくんだろうな～と漠然とした孤独感がありました。
- が、縁あって飛び込んだ家族会には、常識に捉われない面白い人がたくさんいました。全国には、ほんとうにいろんな人がいて、その人なりの生きざまがありました。人とかかわるのは、誤解や批判があったり、いろんな痛みも伴うけれど、かかわっているうちに、この人は、こんな思いを持って生きてるんだなあ、面白いなあ、すごいなあとパワーをもらうことの方が多かったように思います。そこには親とか子どもという立場を超えた「人」と「人」という感覚がありました。
- 人に頼ることが苦手だった自分も、さびしいとき、不安なとき、喜びを分かち合いたいとき、全国の居場人の顔を浮かべて、一日一日やってこられたなあと感じます。「あ、私はここに居ていいんだな～ここに居たいな～」と。
- 今ひそかに、コロナが落ち着いたたら、「全国の居場人を巡る旅マップ」
- なんか作ったらどうかなあとか、縁が縁を呼んで、また面白い企画が
- できたらいいなあ～なんて、妄想を膨らませてます。

劇「みんなピアでえいやんか」

- 【あらすじ】
- ある町の町役場に勤める公務員・一也の家では、高齢の父・文蔵がひとり寂しく夕食をとっている。昔は町長もしていたが今は訪ねてくる人もおらず、妻を亡くしてからは孤独な毎日を送っている。息子の一也とその妻・景子、孫の理香と同居しているものの、いっしょに食卓を囲むこともなくなり、さらに孤独をかみしめる日々・・・生きていく気力を失い、死を願うようにもなっていた。そんな中で、近くの川にかかる橋の上で、ある青年に出会う。「ひきこもり」だったというその青年に出会うことで、文蔵は忘れていた大切なものを思い起こすことに・・・。

【キャスト】

寅 太 郎	浦 砂智子	保 健 師	佐野 飛鳥
文 蔵	山崎 正雄	利 用 者A	入交 彩子
桜（寅太郎の妹）	泉 由季	利 用 者B	武石 彩乃
一也（文蔵の息子）	公文 一也	博子（文蔵の亡くなった妻）	梅原 博子
景子（一也の妻）	山本 景子	理香（一也の娘・女子高生）	中内 菜々美

<脚本・監督・編集> 山崎 正雄

山本景子（いの町ほけん福祉課保健師）プロフィール



手前の写真 は 山崎正雄 所長

平成20年から「いの町ほけん福祉課」で保健師をしています。

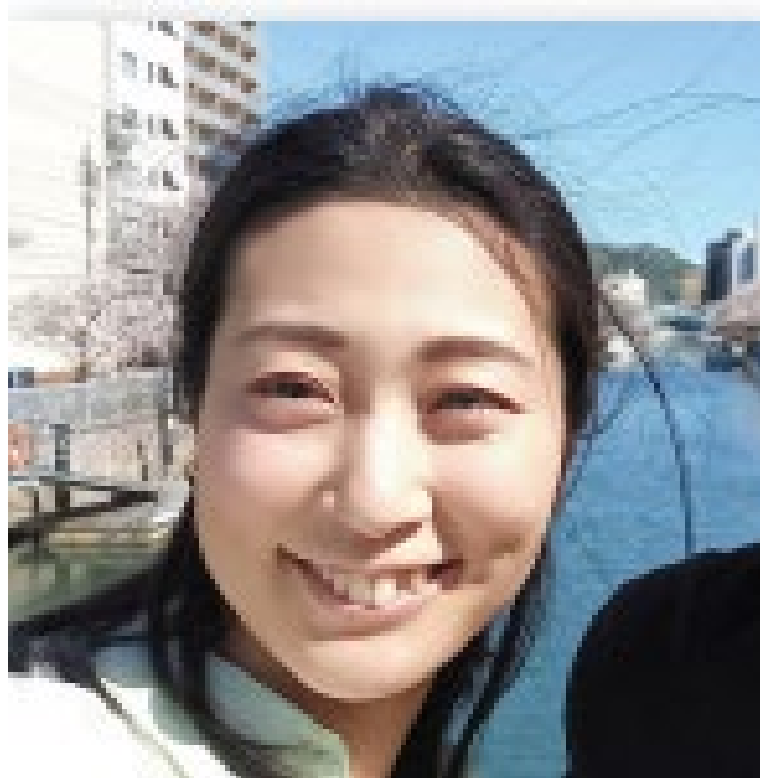
いの町では、平成23年から高知県ひきこもり地域支援センターのバックアップを受けながら、「ひきこもり支援」に取り組んでいます。

センターの山崎先生はとっても優しい先生なのに、最初は「今日こそ怒られるに違いない…」となぜか震えながら支援会議に臨んでいたことをよく覚えています(笑)でも、その支援会議で自分の感じたことを伝え、アドバイスをもらい、学べることはとても新鮮でした。そうして対象者と長く関わるうちに、少しだけ明るくなった表情をみたり、悩みを話してくれるようになったりと、ほんの少しの変化が嬉しくて、気づけば私自身がたくさん力をもらっていました。

そんな取り組みを続けてきて、今は町の伝統産業「土佐和紙」と福祉部門が助け合い、お互いがますます笑顔になる取り組み「紙福連携」が広がると良いなあと日々考えています。



佐野飛鳥 (高知県ひきこもり地域支援センター(高知県立精神保健福祉センター内) ひきこもり支援コーディネーター・作業療法士) **プロフィール**



1985年生まれ。

同じ支援者だけでなく、当事者の方、家族の方、ピアサポーターの方…色々な方と色々な形のピアを日々感じています。今回のフェスティバルでも仲間にしていただき大変光栄です！

共に考え、共に取り組み、共に過ごせる時間を楽しみましょう！交流ブースにもぜひ遊びに来てください！



あんちゃん・安藤理恵子（りぐらっぷ高知） プロフィール



- 東京の病院でソーシャルワーカーとして勤務した後、名古屋の事業所で働き、さらに西に流れて高知に在住。
- 高知県でひきこもり支援に関わる。
- 15年ほど前に、WRAPに出会い、リハビリの旅が始まる。
- 夜寝る前のヨガと、コーヒーが元気である道具。



NPO法人 高知県難病団体連絡協議会

林 道夫（はやし みちお）

ヤ・シィパークの近くでマッサージ・はり治療院を営む、うさぎ年・乙女座の58歳。

小学校の入学検診で、視力検査表の0.1が見えず、目が悪いことが判明。進行性の眼の難病である「網膜色素変性症」により、35歳くらいで失明。

それでも、頭を使うことより身体を動かすことが好きで、趣味は登山、クライミング、サイクリング（タンデム自転車）にマラソン。今年10月には12年ぶりに四万十川ウルトラマラソン 100kmの部に参加予定！

現在は、高知県網膜色素変性症協会やNPO法人高知県難病団体連絡協議会などでピアサポート活動をしています。

あっ、晩酌の習慣はないけど、みんなでワイワイ飲むのは嫌いじゃないので、お気軽にお声掛けをっ！

(^_^)／＼☆＼＼(^_^)





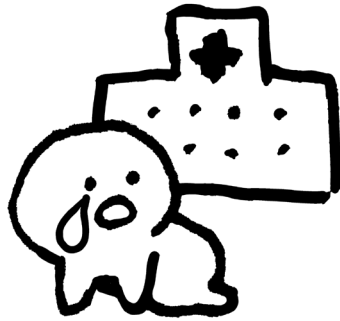
NPO法人 高知県難病団体連絡協議会

横山 江里子 (ひるね)

21歳と18歳の子どもと
同い年50歳の夫と4人家族。

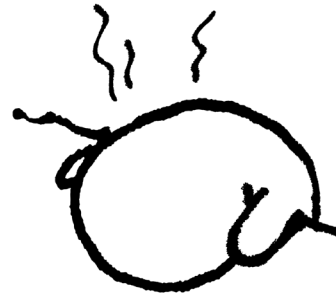
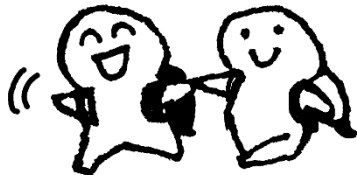


仕事はブラック。
ではなくデザイン業。

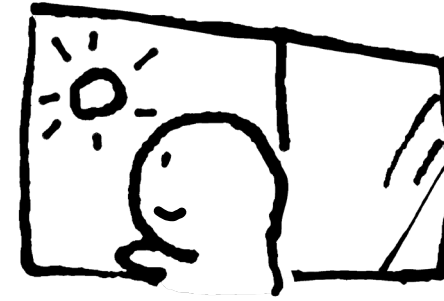


下の子に生まれつき
難病や聴覚障害があり、
情報やつながりを求めて患者会や
親の会に参加。

課題が多い中でも
毎日を疑いもなく
送っていたけど...



上の子は高1の夏から
下の子は高3の夏から
不登校に。



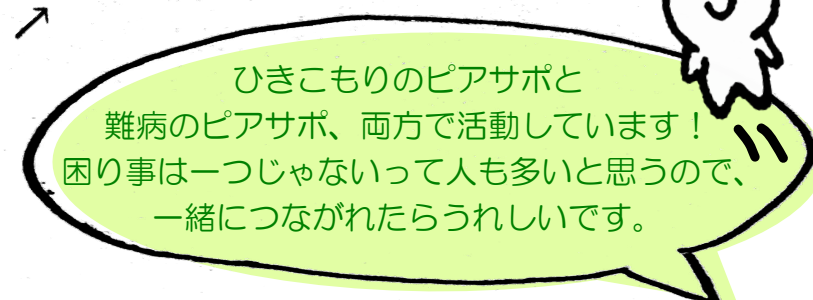
でも、何とかやっています。。



子どもたちも
私も夫も手探り。
先は全然わからない。
道なき道を行く感じ...



悩んでいた時、
やいろ鳥の会と出会う。



ひきこもりのピアサポと
難病のピアサポ、両方で活動しています！
困り事は一つじゃないって人も多いと思うので、
一緒につながれたらうれしいです。

結実(ゆいみ)

(KHJ当事者オンライン支部居場所～特性を生かす道～代表) プロフィール

(お笑い リラックスの部屋)



私が居場人だと思う人たちと出会うまで私はとても孤独でした。何十年も一人で悩み
苦しみ、自分を否定する毎日でした。

居場人の人たちと出会い初めてありのままの自分を肯定されてからやっと私は私自身
を少しずつ受け入れられるようになりました。

思えばその出会いが私の人生を大きく変えたように思えます。

私は学習障害があり人の顔の認識が困難で話し下手で文章も苦手ですが居場人と出会
い多くの当事者仲間の支えで活動が続けてくることができました。

居場人との出会いとその繋がりは今後の人生においてかけがえのないものになると
思っています。

今回のこのフェスでも多くの居場人と出会い、そしてまた私も
誰かの居場人になれたらと思います。



チグバグ プロフィール

(KHJ当事者オンライン支部居場所～特性を生かす道～)
(お笑い)



みなさんこんにちは。居場所～特性を生かす道～の
tigubagu（チグバグ）です。

「居場所」の存在は僕にとってとても大きな意味を持っています。そして居場所を感じられる「居場人」も僕にとってとても大きな意味を持っています。居場人の中で僕はありのままの自分であることができます。

僕はこれまでたくさんの居場人に助けられてきました。なので僕自身も誰かにとっての居場人となり、誰かにとっての力になっていければなと思います。よろしくお願いします。



あんじー（佐藤恵子） プロフィール

（KHJ本部事務局）



- ひきこもりフューチャーセッション庵のコアメンバーとして2か月に一度東京都内で対話の場を運営していました。
- KHJ全国ひきこもり家族会連合会主催全国で開催された「ひきこもり大学」「つながる考える対話交流会」ファシリテーター「ファシリテーター養成講座」講師も担当。現在KHJ全国ひきこもり家族会連合会事業統括マネージャー。
- ピアサポート養成講座企画運営講師を担当しています。KHJが考える誰もがピアサポーターなのだというインクルーシブな考えに共感しています。
- 「ピアサポフェスin高知」が、ピアサポートの重要性を社会に広げるきっかけになると確信しています。高知から全国へピアサポの波を広げていきましょう。

がきんちょ プロフィール

(スタッフ)



- 東京下町在住のひきこもり当事者。かつて、子育て中の親の立場なのに専業主婦という名のひきこもりを経験。40代で発達障害の診断を受けたときには、仕事も家族もすべて失っていた…
- 現在、ひきこもり地域家族会「荒川たびだちの会」や、ひきこもりやLGBTなど様々な生きづらさを対象にした「アライな当事者会」に関わっている。KHJひきこもりピアサポーター研修受講がきっかけでKHJ本部事務局で働くようになったが、現在もがっつり地元でひきこもりがちな日々…

大橋史信

(一般社団法人 生きづらさインクルーシブデザイン工房代表理事/ ひきこもりピアサポーター
／生き難さコンシェルジュ <https://www.iidk.org/>) プロフィール
(スタッフ)



1980 年5月7日東京都文京区生まれ。

『いじめ、不登校、家族との確執、発達障害、ひきこもり』の生きづらさ五冠王当事者としての視点、今までの社会経験を活かしながら、教育、就労、家族関係などをテーマに誰もが社会的所属先を持ち、自分らしい生き方が出来る、また生き難さをカジュアルな喫茶店でも気軽に語れる社会の実現のために全国各地で講演、支援活動を行っている。
既に両親の見送りを経験。親なき子ともなっている。

家族関係心理士の岡本二美代さんと「不登校・ひきこもり・発達障害・LGBTQ+ 生きづらさの生き方ガイド」を2021年7月、
(株)日本法令より出版。



ミルキィなお（西依奈起）プロフィール

（全体司会）



こんにちは。

ミルキィなおこと西依奈起です。

「ダイヤモンドスマイル伝道師」と勝手に名乗り、福岡を中心に役者、司会者、講師、ライターとして活動しています。

KHJ全国ひきこもり家族会連合会との出会いは、2017年の東京で開催された全国大会の司会として呼んでいただいたのがきっかけです。（ジャンボさんありがとうございます♪）

イベントに参加させていただく度に、たくさんの優しい方々とのご縁をいただいています。誰かの笑顔が私の幸せ。ご縁をいただいた皆様の笑顔の花が咲くように、微力ではありますが、これからもお手伝いをさせていただければと願っています。

8月7日（日）の居場人たち プロフィール集



楠永洋介 プロフィール

(8月7日トークショー リラックスの部屋)



楠永です。今日もここに居ます。生まれてこのかたここに居ます。これからもここに居たいと思っています。

居場所は人ありきというか、そこに居られる人により様々にその様相を変えるということはみんな体感するところだろうと思います。

皆それぞれ誰かの居場所になっていると思います。というと、不思議に思う人もいるでしょうし、なんだかイヤな汗をかく人もいます。そんなマジな人との繋がりをなんとなく私から感じていただけるとしたら、それは本当に得難い事であろうと思います。

小学校3～4年を不登校、次いで中学校1年2学期～2年生を不登校、義務教育期間中は正味5年程しか登校していません。定時制高校を卒業後、進学、卒業を拒否して祖父の遺したお金でネットスクールや、ワークショップ、FXなどを経験してお金を溶かしました。

なんやかんやあって結婚後、2人の子供を授かる。現在、農業、整体業、塾講師等で生計を立てる。

池上正樹（ジャーナリスト・KHJ広報担当理事） プロフィール

（8月7日 トークショウ）



- 居場人の皆さん、こんにちは。僕は子供の頃、友人や話し相手がいなくて、いつも1人で本ばかり読んでいました。当時、学校は通うのが義務だと思い込まされていたので、休み時間になると教室のカーテンの陰に隠れて外を眺めていたのですが、自分が嫌でひたすら存在を消したかったのだと思います。こうして今、大勢の人の前で話したり、メディアに晒されたりしている将来の自分を、当時はとても想像できませんでした。振り返れば、子供時代からよく1人旅をしていたのは、ここではないどこかで、自分を受け入れてくれる何かと出会いたかったのかもしれないかもしれません。でも、そんな期待や希望がかすかな支えになって生きてきました。
- 10数年前ひろゆきさんと対談した動画を観て、今も僕に会いに来る人たちがいるのは、この人なら自分の気持ちもわかってくれるかもしれないといった思いが伝わるのかもしれないかもしれません。そんな当事者性を持つ居場人の1人でありたいと思っています。



藤澤 尚樹 (スプレーアーティスト)



実は、子どもの時から絵は好きな方でした。ですが、ADHD（注意欠陥多動性障害）とASD（自閉症スペクトラム）を幼少期から抱えており、触覚過敏も併発していました。そのため、好きで絵を描いていても耐えることのできない心の苦痛で描きかけの絵を自ら破る事が多かったです。単なる触覚過敏なら休み休みでも問題はないのですが、ギリギリまで自分を追い込むとADHDの傾向で衝動性が表に出ることが多々ありました。なので、僕は高校卒業時まで家の外では、『絵が嫌いな子』を演じました。

スプレーアートに触れたのは約3年で実は結構最近のことなんです。きっかけは、20歳の頃に出会ったスプレーアーティストの旅人さんでした。筆を使わず、紙に手で触れないスプレーで絵を描く姿に心から涙が出ました。それから8年間、偽りの殻を剥ぎ28歳の時に初めてスプレーで絵を描きました。絵を避けていたので、のっぺりとした絵が出来ました。ただ「気持ちが良い」の一言だけでした。

でも、ADHD・ASD・触覚過敏のある自分でもこのジャンルなら描けると確信し、翌年29歳の時に本気で絵を描きました。自分でも驚きましたが絵が売れ、依頼も数件頂きました。それを機にスプレーアーティストを名乗っています。

絵は昔から時間を忘れるほど好きで、技法も独学でしたが実践をする機会は少なかったです。けれども、「心から描いている形のない作品」として見ていただいた方から幻想的・心が軽くなるとうれしい評価を頂いています。

澤村知秀 プロフィール

(百合の出展)



日に日に加齢臭が濃くなる気がします。どうもこんにちは、澤村知秀です。

幼いときは早く大人になりたいと思っていましたが臭くなるとは聞いていませんでした。小
学校で教えるべきです。プロフィールなのでチャームポイントでも書きます。

いい歳なので大腸内視鏡検査をやったのですが、いぼ痔が発見されました。通りで痛
いわけです。見つけた医者が楽しそうに教えてくれたので、チャームポイントにしておきま
す。今回は居場人だということで、意味を拝見しましたが、私にはそんな大役には遠く及
びません。ただ、いぼ人としてはそれなりに生きてきたので、こちらのキャリアでカバーし
たいと思います。モットーは『マジメに不真面目』私の好きな言葉です。あ、ユリ切り花農
家をやっています。

どうぞひとつよろしくお願いします。



西尾 真之介 プロフィール

(マルシェコーナー)



2018年3月にASD(自閉症スペクトラム)と診断、ADHDの特性もある。2021年よりKHJ認定ピアサポーター。KHJ高知やいろ鳥の会会員(2015年入会)。

ひきこもり歴は、20歳から約1年間就活に行き詰まり、25歳から資格試験で失敗して再びひきこもりに。30歳から仕事で心身的に疲れて3度ひきこもった。

現在は、主にゆり農家をはじめ、複数の仕事を抱え多忙を極めている中で、日々仕事も活動もピアサポートの精神を貫いている。

志～ちゃん(ひきこもり大学)プロフィール



- 皆さんこんにちは。「やいろ鳥の会」所属の認定ピアサポーター、永井志穂(志～ちゃん)です。僭越ながら、「ひきこもり大学」開始前に少しでもご挨拶させて頂きます。よろしくお願いします！
- まず、はっきりとお伝えしておかなければいけないのは、私にはほかの登壇者の方々とは違って明確なひきこもり歴が無いことです…。
- しかし、小学4年～中学1年までのわずか3年間で、非常に身近な存在だった親族を立て続けに亡くしています…。
- しかも、さらに追い討ちをかけるように、小学5年～中学3年までの約5年間もの間、女子ならではの(?)の陰湿なイジメにも遭ってしまい、1年も経たないうちにすっかり人間不信に陥ってしまいました…。
- それでも、『家族に変な心配をかけたくない!』と思ってイヤイヤながらイジメに耐えつつ学校へ行き続けた結果、ある日突然とうとう学校へ行けなくなり、自然に教室にも入れなくなってしまいました…。
- その後、別室登校などに切り替えて学校へ行く努力はしてみたものの、結局今現在も当時の“クセ”のようなものが残り続けています…。
- 今回私が自らの経験などを語ることは無いかもしれませんが、やっと皆さんの前で司会進行出来るくらいにまでは体調を持っていた私を、どうか暖かい目で見守って頂ければと思います…。
- そしてもちろん、ほかの登壇者の方々を含めた私たちのお話をぜひ聴きにきて頂けると嬉しいです！フェスティバルで皆さんとお会い出来る事を心から楽しみにしております！！

景平公彦（かげちゃん）（ひきこもり大学 テレワーク学科）



こんにちは。僕は仕事がきっかけで2011年に鬱になりました。最初は眠りが浅くなり、寝ても疲れが取れない、些細な事で怒る。そして、眠れなくなり、1日起きていつの間にか寝る。ついに、布団から起き上がれなくなりました。起き上がると、不安が襲ってきて部屋の隅をグルグル回っていました。

だから、父に『病院へ連れて行ってほしい』とお願いをしました。ドクターから『少し休みましょう』と、言われ半年後に回復したので、就職しましたが、リストラを経験しました。そこから約3年ひきこもりました。食事はヨーグルトと何か。空腹は感じなく誰かが何かを食べる動画を眺めていました。トイレから部屋まで立って往復できず廊下で横になり休む事も。約3年の間に20キロ太り、髪もヒゲも伸びたまま。まともに着れる服もなく、そんな見た目だから視線が気になりコンビニで買い物をするのも怖く足が震えていました。

お金がない。でも、怖い。そんな時にテレワークと言う働き方に出会いました。

2018年に入社し、たまに休みますが、なんとか続けることができます。みなさんの『きっかけ』になればと思います。

しまさん(ひきこもり大学 ケアラー学科)プロフィール

はじめまして、島崎です。よろしくお願いします。

高知やいろ鳥の会でひきこもりピアサポーターの活動をしています。

22歳～36歳まで若者ケアラー を経験して14年間自分の時間を持つことを忘れて母親のケアーに専念していました。

36歳10ヶ月でうつ病をきっかけにケアラー を卒業してから自分の時間を持つことに戸惑いを感じながら、生活をしていました。

現在は自尊感情の勉強のために、はまゆう教育相談所の相談部員として活動、メンタルヘルスの勉強のために、りぐらっぷ高知に所属しています。

アダルトチルドレン (A C)の自助会で
自分のネガティブ感情を吐き出す場所として利用しています。



水田（ひきこもり大学）プロフィール

思いやストーリーが感じられるプロフィールがあるといいな、とのご依頼を運営様から頂戴したのだけれど、思いやストーリーをいくら探しても私の中には見つからなかった。

まだまだ探す気ですか、と問われた気がしたので、逃走を繰り返した過去や娑婆に出てみた3年間の思い出でお茶を濁そうかと考えたが、前者は放蕩三昧を思い返すとうんざりであるし何より長大でスペースに都合よく収まるわけもなく、後者はこれまた風の向くままフーテン稼業の様相であったので薄っぺらく感じられて憚られた次第。

事程左様にふざけた人間です。かれこれ半世紀やってます。すみません。

そんな逸脱者を笑顔で包み込んでくれるこの祭典は素晴らしいのだと思います。思っていないと書けません。うん、きっと。



石川 佑太(ひきこもり大学) プロフィール



私は石川佑太と申します。居場人については、その時そこにその人がいた、その時その人に必要な人、その時に出会ったからよかったとか、会うべくして会った、かもしれません。また人と関わることで出会う人々は「とまり木」のような印象もありますし、「先生」のようでもあります。うまく形容しきれないですが、その時に自分がその人と居られるということが大事なのではないのでしょうか。

私がどのような居場人なのかさっぱりわかりませんが、誰かが少しでも羽休め出来るような人であつたらと思います。



大川雅義（ひきこもり仙人） プロフィール



KHJ高知支部「やいろ鳥の会」の大川雅義（ひきこもり仙人）です。
元ひきこもり当事者で、「ひきこもり支援相談士」でもあり、
今は「ひきこもりピアサポーター」として活動させてもらっています。
生まれつき虚弱体質で、生きていけるように改造するため（？）
母に厳しく育てられました。

具体的には「基質的心臓弁膜症疑い」「洞結節不全症候群」
「メニエール病」「斜視」「耳鳴り」、近年では「若年性認知症」
の可能性を大いに感じています。

メンタルヘルスに関しては通院していないので、いわゆるグレーゾーン
ですが、**ADHD・ASD・吃音・アダルトチルドレン・HSP**等々、なんでも
ござれな包容力を自負しています。

「働かざる者食うべからず」「子は親の奴隷」で、ひきこもる事を
許されない環境でしたが、虐待やいじめなど様々な生き辛さを躲したり
克服したりしながら、なんとか生き延びることができました。

今は、独立した娘や新たなパートナーに恵まれ、幸せに暮らせていて
感謝の気持ちでいっぱいです。

田中 敦 (北海道「NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク」理事長)

(対話の部屋)



転勤族世帯で小学4年のとき精神的に疲れたのか保健室登校となる。小学6年の転校を契機に「いじめ」に遭い、中学時代は「不登校」。高校受験に全敗し「中学浪人」となり在宅生活を送る。当時フリースクールはなく、心配した母親が民間私塾に頭を下げ特設クラスがつくられ渋々通うようになる。そこで自分と似たような境遇の人たちと出会い次第に元気になり今日の礎となるピアサポートの源流に触れる。高校は人より遅れて進学。大学卒業後就職するもどれも長続きせず転職を繰り返す。

社会人枠で大学院に進学し福祉を学ぶ。在学時から専門学校で非常勤講師をしながら発達障がいの子どもたちと共に学ぶ。大学院卒業後、1999年に現在のレター・ポスト・フレンド相談ネットワークを設立。2010年に法人化する。

2022年に重篤な認知症で母親を亡くし父親は慢性的心不全で入院加療中。現在進行形で8050と向き合う日々。

大学の教壇に立ち社会福祉を教えつつ団体運営を担う。56歳。



大橋伸和（北海道「NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク」）

（対話の部屋）



北海道でピアサポーター活動をしています、大橋伸和です。居場人という言葉を知り、ピアサポーターとの違いは何だろうか？と考えちゃいました。いくつかの居場所で活動している中で「サポーター」という言葉が入っているのを「サポート＝支援」と考えちゃうと、大きな違和感を持ちちゃいます。確かに、誰かの役に立てられればいいな、という思いは根底にあります。支援を行う人ではないという感覚ですね。

サポートという言葉で感じるのは、私から誰かにサポートするのではなく、私や誰かがお互いに支え合う双方向的サポートなのではないかなという事です。

そして、居場人で思うことは、ただ、居場所の中で、それとなくその場に来ている方達と一緒に活動するときもあれば、何気なく居るだけでも、安心感漂う空気が形成されるような。そのような存在が居場人なのかなと思われました。

時には、プログラムの活動や、場のファシリテート。

居場所運営のための各種事務作業などもあります。

これらの活動を行う際にはピアサポーターという言葉がしっくりするかもしれませんが、しかし、2つの言葉には大きな違いは無いとも感じさせられました。

